

4 | 動詞 **piacere** (～が好きである、気に入る) と **interessare** (～に興味がある)

piacere / interessare + a + 人

piacere と interessare を用いて「誰々は～が好きである、～に興味がある」という文を作る場合、「好きなもの、興味の対象」が動詞の主語になり、「誰々」にあたる部分は、主語ではなく、a～という間接目的語の形で表現されることとなります。しかもその主語は piacere と interessare の活用形の後ろに置かれることが多いのが特徴です。

間接目的語人称代名詞	動詞	主語	
mi (= a me)	piace interessa	il calcio.	単数
ti (= a te)		questo romanzo.	
gli (= a lui)		l'opera lirica.	
le / Le (= a lei / Lei)		mangiare. (不定詞)*	
ci (= a noi)	piacciono ** interessano	i cani.	複数
vi (= a voi)		questi fiori.	
gli (= a loro)		le persone sincere.	

⇒ calcio (m.) : サッカー sincero : 誠実な、率直な

* 不定詞は男性単数名詞の扱いです。

** piacere の活用形は変則です。3人称複数形は piacciono と c がダブることに注意してください。

◆ Mi piace l'opera lirica. 私はオペラが好きだ。

◀「好きなもの」は「オペラ」です。「オペラは私には好みである」という文と考えれば文法的にわかりやすいでしょう。「私には」にあたる部分が **mi (= a me)** です。piacere は「好みである」という意味で考えてみましょう。主語は l'opera lirica で 3人称単数ですから、L'opera lirica piace a me. ということになりま

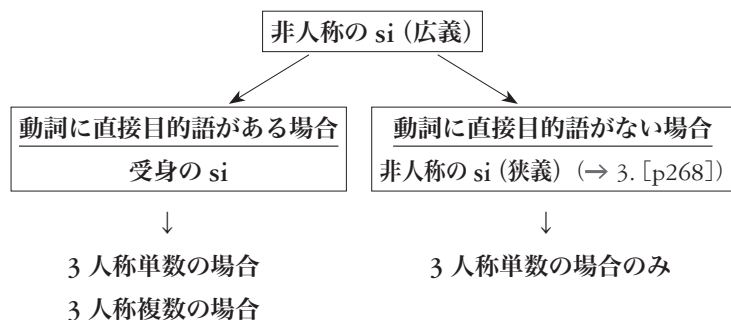
す。これを通常は主語の位置を変えて *Mi piace l'opera lirica.* とするのです。強勢形 *a me* を文頭に置いて *A me piace l'opera lirica.* とすると、「(ほかの人のことはわからないが)私はオペラが好きです」というように、「私は」を強調するニュアンスが出ます。

ただし、文によっては、主語を文頭に置くほうが自然になる場合もあります。(→ 12 章 1.1) [p175])

- ◆ **Mi piacciono gli spaghetti.** 私はスパゲッティが好きだ。
 - ◀ 今度は主語が *gli spaghetti* と 3 人称複数ですから、動詞 *piacere* は *piacciono* となります。これも *Gli spaghetti piacciono a me.* (「スパゲッティは私には好みである」) と理解するといいでしょ。
- ◆ **Non ti piacciono i libri gialli.** 君は推理小説が好きではない。
 - ◀ *non* は文頭に來ます。 *I libri gialli non piacciono a te.* (「推理小説は君には好みでない」) ということです。 ⇒ *libro giallo* (m.) : 推理小説
- ◆ **Ci interessa molto quell'azienda.** 私たちはあの会社にとっても興味がある。
 - ◀ *interessare* は「興味を抱かせる」という意味に考えましょう。あとは *piacere* と同様です。 *Quell'azienda interessa molto a noi.* つまり、「あの会社は私たちにとっても興味を抱かせる」ということです。
この *molto* は副詞です(「非常に」「大いに」という意味)。
(→★ 12・副詞の *molto* と形容詞の *molto* [p83]) ⇒ *azienda* (f.) : 企業、会社
- ◆ **Gli piace mangiare e dormire.** 彼は食べることと寝ることが好きだ。
 - ◀ 主語は *mangiare e dormire* です。「食べること」と「寝ること」の 2 つのことをいっているので、これが 3 人称複数なのか単数なのか問題になりますが、不定詞の場合は全体で単数と考えて、 *Gli piacciono* でなく *Gli piace* とします。
- ◆ **Mi piaci.** 私は君が好きだ。
 - ◀ *piacere, interessare* の主語は、通常、3 人称単数か複数ですが、この文のように主語が 2 人称であったり次の例のように 1 人称であったりすることもあります。この例では、「君」が主語で、それに合わせて動詞が *piaci* と 2 人称単数になります。 *Tu piaci a me.* (「君は私には好みだ」) ということです。
- ◆ **Ti piaccio?** 君は私が好きですか？
 - ◀ 「私」が主語ですから動詞は *piaccio* です。 *Io piaccio a te?* (「私は君には好みですか」) ということです。

(5) si を用いた受動態 (受身の si) (si passivante)

1) 受身の si に入る前に、次項で触れる非人称の si (si impersonale) と受身の si の関係について図示しておきます。



この後、受身の si と非人称の si について説明しますが、両者を厳密に区別する意味はなく、どちらも広い意味での非人称の si に包摂されると考えましょう。

たとえば、受身の si の訳ですが、Il Monte Fuji si vede da lontano. を例にとると、文法的には「富士山は遠くから見られる」と訳すこととなりますが、実際は人一般が主語であり、「人は富士山を遠くから見るができる」というのがこの文の本意です。となれば、これは後述する非人称の si と変わらなくなるわけです。

実際、1つの文の中に受身の si と非人称の si が混在することがあり、この2つを包摂する広義の非人称の si という概念を想定しないと日本人には混乱が起きるでしょう。事実、イタリア人なら次の文における si は、どちらも非人称の si だと言うはずで

- ◆ Si va a casa quando si finisce il lavoro.
人は仕事を終わると帰宅するものだ。

前者の si は非人称(狭義)の si ですが(→ 3. [p268])、後者の si は、直接目的語 il lavoro を持つ他動詞 finire の受身を表す si です。しかし、どちらの si も結局のところ「人は」という意味で考えることになるはずで

2) 受身の si

他動詞が si をともなうことで受身を表現することができます。この場合、もちろん他動詞の直接目的語が文の主語になるわけですが、その主語は3人称単数・複数形に限られます。人以外のものが主語になることがほとんどです。また、特定の動作主(da ~ 「~によって」)は表現されません。動作主として想定されるのは、漠然とした一般的な人々ということになります。主語は動詞の前後どちらに置いてかまいません。

si + 他動詞の3人称単数形 + 単数名詞(主語)
もしくは
si + 他動詞の3人称複数形 + 複数名詞(主語)

- ◆ In Italia si mangia tanta pasta. [単数名詞]
イタリアではたくさんのパスタが食べられる。
- ◆ In Giappone si usano le bacchette. [複数名詞]
日本ではお箸が使われる。 ⇒ bacchette (f. pl.) : 箸
- ◆ I biglietti si possono comprare in treno. [複数名詞]
切符は列車内で買うことができる。
- ◆ L'ordine sociale si deve mantenere. [単数名詞]
社会秩序は守られるべきである。
= L'ordine sociale va mantenuto.
= L'ordine sociale deve essere mantenuto.
- ◆ Questo è un dolce che si deve mangiare freddo.
これは冷やして食べないといけないお菓子だ。 ⇒ dolce (m.) : 菓子
= Questo è un dolce da mangiarsi freddo.
◀ こんな形をとることもあります。

● 複合時制の受動態：si を用いた直説法近過去の受動態

直説法近過去などの複合時制の場合、助動詞には essere を用い、過去分詞は主語の性と数に一致させます。